

大学病院に求められる医療の質と経営の 両立を目指した98床の病床削減

尾崎 誠

(長崎大学病院 病院長)

医療経営士2級
認定登録番号：
24210219090037

【目的】

長崎大学病院は2024年4月時点で病床数874床、うち高度急性期病床827床を有する特定機能病院である。人口減少と高齢化が急速に進む中で、病床稼働率は80%程度まで低下しており、病床再編が課題となっていた。また、当院が位置する「長崎区域」は、厚生労働省より「地域医療構想のモデル推進区域」に指定され、病床数の適正化を含めた地域医療体制の再構築も求められていた。

こうした背景のもと、大学病院に求められる医療の質と経営の両立を目的に、大学病院としては前例のない98床の大規模病床削減を実施した。

【実施方法】

HCU(ハイケアユニット)の新設にあたり、4:1の看護配置基準を満たすための人員確保が必要だった。また、地域医療介護総合確保基金を活用するには、病床の10%以上削減が条件であり、これらを考慮し、一病棟の閉鎖と、各病棟から4床ずつの削減などを行い、計98床を削減した。

病棟削減により確保できた看護師は、HCUをはじめ、手術部、リハビリテーション部、安全管理部などへ配置した。4床を削減した病棟では、敢えて看護師数を維持し、病床あたりの人員を増やすことで、より手厚い看護体制とした。病床削減により生じたスペースは病棟内リハビリ施設として、また病棟に配置した薬剤師、管理栄養士、セラピストら多職種が使用できるオープンオフィスとして活用する予定である。

【実施期間】

HCU新設は2023年度中に計画され、2024年度に着工、2025年4月に開設された。98床の病床削減の方針は、2024年度中に決定され、病棟改修や人員配置計画を進めた上で、2025年4月より新体制での運用がスタートしている。また、削減に伴うスペースの転用も順次進行中である。

【考察・結果】

一般的な病床削減は、人員削減による固定費の抑制を目的とするが、当院では人員の再配置により病院機能を強化する方針を取った。HCUやリハビリテーション部、手術部、安全管理部門などの体制を充実させ、急変時対応や診療の安全性を高めることを目指した。また、手術件数の増加や診療単価の上昇も見込まれ、経営的な改善も期待される。改修費用については、補助金を活用して負担軽減を図っている。

今回の取り組みは、大学病院が大規模な病床数削減を行うことで、大学病院に求められる医療の質と経営の両立を目指す、今後のモデルケースとして期待される。

【共同研究者】

近藤政美、原善達、辻野彰(長崎大学病院)

